

# 佐幌の歴史

小笠原 知新



佐幌は私の生れ育った所で、父が明治41年4月に入地し75年が過ぎました。私の父は僧侶で上佐幌説教所の初代をつとめ、昭和14年秋屈足の現在地に移転したもので、佐幌地帯の恩恵は言語に絶するものがあります。

昔の人は次々と去りました。貴重な存在である現在の古老を訪ねて出来るだけの記憶を残したいとの念願のもとに大先輩を訪ねました。

その記録の前に入植当時のことと入植年表を記します。

## 新得町史抜粋（昭和29年発行）

明治33年福井県より徳橋清助10数戸の越前団体を引きつれ、佐幌基線3号附近に入地した。この一行は福井県鯖江駅から乗車、伏木につき伏木港から小樽到着、それから上富良野駅まで貨車に乗り上富良野で2泊後、金山、落合を経て狩勝鉄道測量の後をたどり、夕刻現亜麻会社附近に到着、村形三吉宅に宿泊して翌日上佐幌高台に向ったのである。この上佐幌地区でその後34年に4戸、35年に6戸、更に上手6号附近に41年松本要吉ら18戸の入地があって、この地区の開拓が進められた。

## 佐幌移住者年表

### 明治 33 年

徳橋清助	斉藤友吉	斉藤駒吉	斉藤ヒロ
田中永助	岩瀬豊吉	後藤栄吉	塚本長左エ門
河合栄作			

### 明治 34 年

藤川孫蔵	當ムネ彦市	青木	新宮平吉
------	-------	----	------

### 明治 35 年

箕浦正吉	安楽正之助
------	-------

### 明治 36 年

鎌田浅吉	石川馬次	谷上長五郎
------	------	-------

明治 37 年

竹 俣 紀 勝      石 川 留 五 郎

明治 38 年

原      縫 太 郎      西 川 半 平      堀 江 新 平      高 橋 三 左 工 門

明治 39 年

宮 沢 崎 太	棚 橋 愛 之 助	諸 橋 久 助	石 塚 幸 一 郎
小 島 馬 吉	佐 藤 善 松	佐 藤 末 吉	佐 藤 祐 治
佐 藤 長 蔵	片 平 忠 助	熊 谷 善 之 助	早 坂 権 太 郎
早 坂 市 松	齊 藤 新 六	佐 藤 善 作	松 原
佐 藤 善 七	佐 藤 勘 吉	柏 葉 松 吉	長 藤 静 祐
石 畑 庄 吉	中 島 守 意	松 本 興 吉	早 坂 佳 之 助
藤 尾 貞 常	齊 藤 伊 三 郎	佐 藤 留 之 助	庄 司 豊 治

明治 40 年

早 田 儀 之 助	島 田 市 蔵	芦 野 長 蔵	中 山 梅 蔵
千 葉 良 助	鈴 木 慶 三	佐 野 長 平	佐 藤 留 吉
平 間 平 七	石 畑 光 五 郎	向 浜 勇 吉	

明治 41 年

渡 辺 富 太 郎	伊 藤 林 蔵	土 屋 喜 助	大 口 伊 三 松
植 田 雪 次	児 玉 伊 六	兼 上 与 左 郎	小 笠 原 智 演

明治 42 年

兼 上 与 三 郎	山 崎 鬼 一 郎	高 橋 右 仲	佐 藤 友 三 郎
仁 科 金 之 助	高 橋 弥 助	奥 田 弥 之 助	

明治 43 年

大 矢 兵 太 郎	川 原 安 太 郎	大 塚 円 貞	児 玉 勘 吉
高 田 柳 三 郎			

明治 44 年

野 沢 助 次 郎	島 戸 富 三 郎	鈴 木 金 作	千 葉 久 助
児 玉 源 一	児 玉 順 三	吉 家 万 五 郎	桑 木 恵 市
堀 江 広 吉	笹 谷 助 之 丞	長 尾 庸 一	